

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キンジョウウガクイン 学校法人 金城学院								
フリガナ大学の名称	キンジョウウガクインダイガク 金城学院大学大学院								
大学本部の位置	愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地								
大学の目的	金城学院大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、広く文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設研究科等の目的	高い倫理観をもち、看護学の専門知識と科学的根拠に基づいた看護実践能力、高度な教育・研究能力を有し、複雑化する社会に生きる対象者への看護実践における課題解決の探究を通じて、看護学の発展や質向上に寄与できる人材を養成する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	看護学研究科	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地
	看護学専攻（修士課程）	2	6	0	12	修士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	令和8年4月 第1年次	
計	2	6	0	12					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>金城学院大学 （設置）</p> <p>文学部国際英語学科（80）（令和7年4月届出予定） 文学部総合歴史学科（60）（令和7年4月届出予定） 経営学部経営学科（140）（令和7年4月届出予定） デザイン工学部建築デザイン学科（80）（令和7年4月届出予定） デザイン工学部情報デザイン学科（110）（令和7年4月届出予定）</p> <p>（廃止）</p> <p>文学部英語英米文化学科（△90） 文学部外国語コミュニケーション学科（△80） 生活環境学部生活マネジメント学科（△70） 生活環境学部環境デザイン学科（△80） 国際情報学部国際情報学科（△170） （3年次編入学定員（△10）） 人間科学部コミュニティ福祉学科（△75） （3年次編入学定員（△5）） ※令和8年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和10年4月募集停止）</p> <p>（入学定員変更）</p> <p>文学部音楽芸術学科（△10）（令和8年4月） 人間科学部現代子ども教育学科（△20）（令和8年4月） （3年次編入学定員（△5）（令和10年4月）） 人間科学部多元心理学科（3年次編入学定員（△5）（令和10年4月））</p>								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数					修了要件単位数		
	看護学研究科看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		14科目	8科目	科目	22科目	30単位			

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	看護学研究科看護学専攻(修士課程)	7 (7)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	27 (27)	
	計	7 (7)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	- (-)	
既設分	文学研究科 国文学専攻(博士課程前期課程)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	
	英文学専攻(博士課程前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	
	社会学専攻(博士課程前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	国文学専攻(博士課程後期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	
	英文学専攻(博士課程後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	社会学専攻(博士課程後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	人間生活学研究科 消費者科学専攻(博士課程前期課程)	13 (13)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	
	人間発達学専攻(博士課程前期課程)	11 (11)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	9 (9)	
	人間生活学専攻(博士課程後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
	薬学研究科薬学専攻(博士課程)	18 (18)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	3 (3)	
	計	60 (60)	20 (20)	2 (2)	0 (0)	82 (82)	0 (0)	- (-)	
	合計		67 (67)	23 (23)	8 (8)	0 (0)	98 (98)	0 (0)	- (-)
職種		専属			その他		計		
事務職員		73人 (73人)			70人 (70人)		143人 (143人)		
技術職員		1人 (1人)			2人 (2人)		3人 (3人)		
図書館職員		4人 (4人)			1人 (1人)		5人 (5人)		
その他の職員		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
指導補助者		0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計		78人 (78人)			73人 (73人)		151人 (151人)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	128,680.35㎡	0㎡	0㎡		128,680.35㎡			
	その他	135,839.34㎡	0㎡	0㎡		135,839.34㎡			
	合計	264,519.69㎡	0㎡	0㎡		264,519.69㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
		84,680.89㎡ (84,680.89㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		84,680.89㎡ (84,680.89㎡)			
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の専任教員研究室			
		76室	173室	104室		16室			
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、図書・学術雑誌・電子ジャーナルについては大学全体の教員、設備については学部と共用。	
	看護学研究科 看護学専攻	541,931 [127,247] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	37,411 [27,151] (37,411 [27,151])	29,318 [26,240] (29,318 [26,240])	6,528 (6,528)	39 (39)		
	計	541,931 [127,247] (535,931 [126,947])	2,745 [599] (2,745 [599])	37,411 [27,151] (37,411 [27,151])	29,318 [26,240] (29,318 [26,240])	6,528 (6,528)	39 (39)		
経費の積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	共同研究費等は大学全体 図書費については電子ジャーナル・データベース整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当たり研究費等		210千円	210千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		4500千円	4500千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	500千円	800千円	800千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	1003千円	180千円	180千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当たり納付金		第1年次 1,002千円	第2年次 802千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要	なし								

既設大学等の状況	大学等の名称		金城学院大学						開設年度	所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率			
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	文学部						0.79	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地		
	日本語日本文化学科	4	70	—	280	学士(日本語日本文化学)	1.08			
	英語英米文化学科	4	90	—	360	学士(英語英米文化学)	0.78			
	外国語コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士(外国語コミュニケーション学)	0.55			
	音楽芸術学科	4	45	—	180	学士(音楽芸術学)	0.20			
	生活環境学部						1.01			
	生活マネジメント学科	4	70	—	280	学士(生活環境学)	0.90			
	環境デザイン学科	4	80	—	320	学士(生活環境学)	1.06			
	食環境栄養学科	4	80	—	320	学士(生活環境学)	1.05			
	国際情報学部			3年次			0.88			
	国際情報学科	4	170	10	700	学士(国際情報学)	0.88			
	人間科学部			3年次			0.89			
	現代子ども教育学科	4	120	5	490	学士(人間科学)	0.88			
	多元心理学科	4	110	5	450	学士(人間科学)	1.10			
	コミュニティ福祉学科	4	75	5	310	学士(コミュニティ福祉学)	0.60			
薬学部						1.02				
薬学科	6	150	—	900	学士(薬学)	1.02				
看護学部						1.05				
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.05				
								令和4年度		
	大学等の名称		金城学院大学大学院						開設年度	所在地
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率				
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	文学研究科						0.45	愛知県名古屋守山区大森二丁目1723番地		
	国文学専攻(博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士(文学又は学術)	0.83			
	英文学専攻(博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士(文学又は学術)	0.00			
	社会学専攻(博士課程後期課程)	3	2	—	6	博士(社会学又は学術)	0.66			
	国文学専攻(博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士(文学又は学術)	0.60			
	英文学専攻(博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士(文学又は学術)	0.40			
	社会学専攻(博士課程前期課程)	2	5	—	10	修士(社会学又は学術)	0.30			
	人間生活学研究科						0.43			
	人間生活学専攻(博士課程後期課程)	3	3	—	9	博士(学術)	0.11			
	消費者科学専攻(博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士(消費者科学)	0.12			
	人間発達学専攻(博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士(人間発達学)	0.93			
	薬学研究科						0.83			
	薬学専攻(博士課程)	4	2	—	8	博士(薬学)	0.83			
										令和4年度

附属施設の概要	<p>名 称 金城学院大学薬草園          目 的 薬学教育の一環として、学生に薬用植物や生薬についての生きた知識を学ばせることを目的とする。</p> <p>所 在 地 愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地          設置年月日 平成17年4月          規模(面積) 1130㎡ (温室面積63㎡含む)          (温室面積) 63㎡</p>	
	<p>名 称 金城学院大学心理臨床相談室          目 的 大学院臨床心理士養成のための実習及び学部臨床心理学実習の場を提供するとともに、一般来談者を対象とする心理臨床相談を行い、地域社会へ貢献することを目的とする。</p> <p>所 在 地 愛知県名古屋市守山区大森二丁目1723番地          設置年月日 平成13年4月          規模(面積) 637.44㎡</p>	

教育課程等の概要

（看護学研究科 看護学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外（助手を除く）		
共通科目	看護学研究法特論	1前	/	2			○			5						4	オムニバス	
	疫学・保健統計学特論	1後		2			○			1							4	オムニバス
	環境健康特論	1前			2			○			1						5	オムニバス
	看護教育学特論	1前			2			○			1	1						オムニバス・共同（一部）
	生命倫理学特論	1前			2			○			1						1	オムニバス
	看護管理学特論	1後				2		○			1						4	オムニバス
	健康科学特論	1前				2		○			2							オムニバス・共同（一部）
	病態生理・薬理学特論	1後				2		○			1						5	オムニバス
	データサイエンス特論	1後				2		○			1						4	オムニバス・共同（一部）
小計（9科目）	—	—	—	10	8	0	—	—	7	1	0	0	0	0	21			
臨床看護学分野	看護コミュニケーション特論	1前	/		2		○			1						4	オムニバス	
	看護コミュニケーション演習	1後			2			○		1						1	オムニバス	
	エンドオブライフケア看護学特論	1前			2			○			1	1				2	オムニバス・共同（一部）	
	エンドオブライフケア看護学演習	1後			2				○		1	1	1				2	オムニバス・共同（一部）
	次世代育成看護学特論	1前			2			○			1	2						オムニバス
	次世代育成看護学演習	1後				2			○		1	2	2					オムニバス・共同（一部）
小計（6科目）	—	—	—	0	12	0	—	—	2	3	3	0	0	0	6			
広域看護学分野	パブリックヘルス看護学特論	1前	/		2		○			2							オムニバス・共同（一部）	
	パブリックヘルス看護学演習	1後			2			○		2							オムニバス・共同（一部）	
	グローバルヘルス看護学展開演習	1前			1			○		1								
	コミュニティヘルス看護学特論	1前			2			○		3								オムニバス・共同（一部）
	コミュニティヘルス看護学演習	1後				2			○		3		2					オムニバス・共同（一部）
小計（5科目）	—	—	—	0	9	0	—	—	5	0	2	0	0	0	0			
特別研究	特別研究Ⅰ	1通	/	2				○		7	3	4						
	特別研究Ⅱ	2通		6				○		7	3	4						
	小計（2科目）	—		—	8	0	0	—	—	7	3	4	0	0	0	0		
合計（22科目）				—	—	—	18	29	0	—	—	7	3	6	0	0	27	
学位又は称号	修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）											
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等											
所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、且つ修士論文を提出のうえ、審査を経て最終試験に合格すること。 所定単位は、共通科目のうち必修10単位を含む16単位以上、専門科目のうち、選択した領域の特論・演習4単位以上を含む臨床看護学分野又は広域看護学分野の6単位以上とし、特別研究8単位、合計30単位以上を取得すること。							1学年の学期区分		2期									
							1学期の授業期間		14週									
							1時限の授業の標準時間		100分									

授業科目の概要				
(看護学研究科 看護学専攻 修士課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究法特論		<p>看護学研究の意義と社会的役割、その基本的なプロセスを学ぶ科目である。文献検索の実際では、医学系データベースを中心にシソーラスを用いて検索を行い、得られた論文をもとに論文クリティークの視点を学ぶ。研究計画書の基本的な書き方を学びながら倫理的かつ実現可能で、適切な研究手法について考える。研究にあたって必須である倫理審査を受けるために必要な準備や量的研究・質的研究など具体的な研究手法を交えながら、その分析のために必要な知識や用いられる尺度についても学ぶ。それぞれ各種研究の実際や文献を示し展開される。論文クリティークの実際ではThe EQUATOR (Enhancing the QUALity and Transparency Of health Research)によるガイドラインを学び、発表ではプレゼンテーションスキルも高めることが期待される。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 上杉裕子/6回) 看護研究の特徴とその理解、質的研究手法基礎編・応用編、ミックスメソッド、エスノグラフィー、アクションリサーチなどの各種研究方法、論文クリティークの実際、論文クリティークの発表</p> <p>(① 阿部恵子/2回) 論文構成と研究発表</p> <p>(5 福田峰子/2回) 文献検索、論文クリティーク</p> <p>(2 飯盛茂子/2回) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の解説、研究計画書の書き方と倫理審査のために必要な事項</p> <p>(7 山口知香枝/2回) 量的研究手法基礎編・応用編</p>	オムニバス方式
	疫学・保健統計学特論		<p>本科目は、学術論文で使われることのできる疫学・保健統計の手法の意味や実際の活用について解説し、学術論文で扱われるデータを正しく読み解くことができるよう教授する。また、修士論文執筆の際にも活用可能な疫学・保健統計の手法を教授する科目である。</p> <p>量的研究を正しく読み解くことができるとともに、SPSSを用いた実践型学習を取り入れることで、実際にデータを要約し、研究に生かす手法も学ぶ。</p> <p>また、本科目での学びを活かし、より発展的な研究への洞察を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(7 山口知香枝/2回) 研究デザインと疫学・保健統計、看護学研究におけるエビデンスとリサーチクエスションの明確化の過程</p> <p>(17 柿崎真沙子/5回) 健康情報を見極める、予防の種類と保健統計、スクリーニング、保健統計学の基礎、保健統計学の応用</p> <p>(18 小山史穂子/2回) 疾患の疫学</p> <p>(19 小島香/4回) 要因分析、SPSSの実践（基本操作・記述統計と平均値の差の検定・重回帰分析とロジスティック回帰分析）</p> <p>(20 竹尾淳/1回) 初学者のための機械学習</p>	オムニバス方式

環境健康特論		<p>本科目は、人々が置かれている様々な環境が、健康にどのように関連しているのかについて、公衆衛生的見地から学ぶ科目である。看護学分野だけでなく、他分野からの健康と環境に関する学際的なアプローチを学ぶことで、広く多面的な視座を持つことが可能になる。そして、健康の保持増進はもとより、疾患の機序とその予防に至るまでといった健康課題を、人々の置かれた環境に関わる社会的課題と捉えることが可能となる。この科目を通して、健康と環境との関連を視野に入れた、柔軟で俯瞰的な視点から看護課題に取り組むための研究のあり方についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(7 山口知香枝／5回) 環境と健康の関連を検証する学術論文の紹介、環境と健康に関わる論文のクリティーク、成果発表とまとめ</p> <p>(21 大矢幸弘／2回) 生活環境と健康①：環境リスクが健康に与える影響を明らかにする全国コホート調査「エコチル調査」の意義、生活環境と健康②：生活環境の中に原因物質があるアレルギー疾患</p> <p>(22 玉田葉月／2回) 生活環境と健康③：身近にある化学物質と健康、生活環境と健康④：子育て中のメディアへの曝露と子どもの健康</p> <p>(23 内藤久雄／1回) 労働環境と健康①：職場の化学物質の職業病</p> <p>(24 大島圭恵／1回) 労働環境と健康②：職場環境とメンタルヘルス・生活習慣病</p> <p>(19 小島香／3回) 社会環境と健康①：健康の社会的決定要因、社会環境と健康②：健康格差、社会環境と健康③：ソーシャルキャピタル</p>	オムニバス方式
看護教育学特論		<p>本科目は、看護基礎教育の全体構造を理解し、現在の看護学教育の課題と将来の展望について考える科目である。また、看護学教育を展開するために必要な知識・技能を習得し、授業設計の方法を学ぶ。授業案作成に取り組むことで自己教育力を養い、看護教育を通じて社会に貢献できる能力を身につけることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(① 阿部恵子／10回) 看護教育制度の現状と課題、授業設計・展開に必要な基礎知識(成人学習理論・経験学習理論)、シミュレーション教育、模擬患者、インストラクショナルデザイン、目標設定、教育評価(パフォーマンス評価とルーブリック評価)、看護教育方法と評価、授業設計・学生観・教育観・教材観①：教育環境の整備と方法、授業設計・学生観・教育観・教材観②：教育者の基本姿勢と学習者に対する倫理的配慮、授業設計グループワーク</p> <p>(10 藏本直子／3回) ICTを活用した授業 (ICT活用で充実する看護教育、ICTを活用した教材作成、評価方法、ICT導入の注意点(著作権、個人情報の取り扱い等))</p> <p>(① 阿部恵子・10 藏本直子／1回) (共同) 授業設計・発表</p>	オムニバス方式・共同(一部)

<p>生命倫理学特論</p>		<p>生命倫理、看護倫理の歴史、看護者の倫理綱領の作成と改訂の経過を学び、看護実践における倫理の意義を理解する。倫理的課題の分析に必要な知識として、生命倫理原則や徳倫理、ケアの倫理などの主要な倫理概念を学ぶ。看護現場における生死に関わる様々な価値を概観し、看護専門職としての自己の価値基盤を明らかにし、倫理的感受性を高める。臨床における看護職と多職種間、施設、社会の考え方のジレンマから生じる様々な倫理課題を分析する。これらを通して、看護の実践、看護研究、看護教育において、看護倫理の視点に基づいて考え、決断し実行できると共に、自己の判断や行動の根拠を説明できるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(6 松浦利江子/13回) 生命倫理、看護倫理の歴史、生命倫理原則や徳倫性、ケアの倫理などの主要な倫理概念、看護現場における様々な倫理課題の分析、まとめ。</p> <p>(25 松谷暉介/1回) グリーンケアとスピリチュアリティ</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>看護管理学特論</p>		<p>看護管理に関する基本的な理論および知識を修得し、看護専門職として保健医療組織における課題を検討し、管理方法について説明できることを目指すものである。</p> <p>看護管理における組織的課題を概念・理論を用いて説明でき、その解決策を看護管理の視点から検討する。看護とマネジメント、リーダーシップ、医療の質保証、集団の意思決定など、看護管理における必要な概念に関する論文を網羅しながら、課題テーマを設定しプレゼンテーションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 上杉裕子/2回) マネジメントの概念と実践、リーダーシップ理論と概念</p> <p>(26 畠山和人/7回) オリエンテーション、看護とマネジメント、ヘルスケアシステムと看護、看護の質保証と医療安全、労働安全衛生と健康管理、看護管理における倫理課題、看護管理における看護課題の明確化、看護管理における課題の発表</p> <p>(27 安立なぎさ/2回) 看護管理に携わる看護職と高度実践看護職の共同、多職種連携とマネジメント</p> <p>(28 大久保清子/1回) 社会情勢の現状と看護管理の課題</p> <p>(29 藤井晃子/2回) 看護管理の実際</p>	<p>オムニバス方式</p>

健康科学特論	<p>人々が健やかに生きるためには、一人ひとりが自らの健康を保持増進することが基本である。そのためには「健康」の概念や、さまざまな状況に置かれた人々の健康課題について理解を深め、彼らにとっての「予防活動」に関心を持つことが大切である。本科目では、多様な健康課題を持ちながら、環境の変化やストレス社会の中で生活する人々の健康保持・増進を目指し、看護実践者として必要な知識を学ぶとともに、対象者の尊厳を守りながら支援する実践方法を理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2 飯盛茂子・5 福田峰子/1回) (共同) 授業ガイダンス、授業の目的・方法(進め方)、評価方法など</p> <p>(2 飯盛茂子/6回) 人の一生と健康、健康の概念、対象の尊厳、障がい者にとっての健康管理、生活習慣病予防のための健康管理、メンタルヘルスと健康課題の関連</p> <p>(5 福田峰子/7回) がんと健康問題の関連、運動器症候群(ロコモ)に関する健康管理、フレイル予防と健康管理、軽度認知障害の予防に関する健康管理、わが国の健康増進対策、健康教育の理論</p>	オムニバス方式・共同(一部)
病態生理・薬理学特論	<p>医療技術の進歩や医療体制の変化などから入院から退院までの期間はますます短縮されており、看護に求められる役割や専門性も変化している。また、患者の心理社会的健康状態も多様化しており、医療現場では、根拠に基づく看護(EBN)の提供は不可欠である。</p> <p>本科目は、前半の病態生理と後半の薬理学の2部で構成される。病態生理では、疾病のメカニズムを理解し、それに基づく最新の外科的・内科的治療について理解する。</p> <p>薬理学では、薬物療法の基礎について学ぶとともに、従来の薬品の作用機序とは違った新しいメカニズムで作用する最新の創薬の知識や個別化医療(テーラーメイド医療)の実践について理解する。</p> <p>この学修を通して、最新の医療知識に基づいた看護ケアの提供や医師・薬剤師とのタスクシェアを行うための看護実践能力向上を目指し、それを支えるための基盤を醸成する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(4 HUSSEIN SALEH, Mohamed H./2回) 新生児および小児の専門集中治療における最新のケア、血液造血管器疾患のメカニズムと最新の治療</p> <p>(30 薊隆文/3回) 病態生理の概論、痛みのメカニズムと最新のペインコントロール</p> <p>(31 北村英樹/1回) 循環器疾患のメカニズムと最新の治療</p> <p>(32 二村昌樹/1回) 免疫・アレルギー疾患のメカニズムと最新の治療</p> <p>(33 松永民秀/6回) 薬理学の概論、個別化医療(テーラーメイド医療)、新しいメカニズムで作用する治療薬、創薬のプロセス</p> <p>(34 中嶋武広/1回) 最新の医療・薬学の知識を看護実践にどう活かすか</p>	オムニバス方式

	データサイエンス特論	<p>従来の統計手法では扱えないような超大規模なデータからは、これまで知り得なかった仮説の発見や今後のトレンドの予測などの可能性が期待されている。また、データは数字だけでなく、画像や音声など多岐にわたる。本科目では、そのようなビッグデータから新たな価値を導くためのアプローチとそのプロセスについて基礎から学修する。研究への活用については、ビッグデータから将来の動向を予測する研究や機械学習を用いた医工連携研究の実際について学ぶとともに、実際に機械学習の実践を行う。これらを通して、データサイエンスが、看護における課題解決のためのどのように役立つか、その方策についての洞察を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(7 山口知香枝・35 間邊利江/1回) (共同) イントロダクション 医療におけるデータサイエンスの活用</p> <p>(35 間邊利江/6回) 病気や治療を科学する：臨床研究とデータサイエンス、世界的感染症に対峙する：データサイエンス技術の活用、人に寄り添った医療提供を目指して：医療データサイエンス研究の実際</p> <p>(36 加藤昇平/2回) 医工連携研究におけるデータサイエンスとAIの活用</p> <p>(37 佐久間拓人・20 竹尾淳/4回) (共同) 機械学習の基礎と実践、</p> <p>(7 山口知香枝/1回) データサイエンスを看護の課題解決にどう活かすか</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専 門 科 目	臨床看護学分野 看護コミュニケーション特論	<p>看護職が身につけるべきコミュニケーション能力は多様な価値観や文化を持つ対象者との関係構築に重要な能力で、看護実践の基盤となる。「多様な価値観や文化を持つ対象者」とは、患者やその家族が持つ文化的背景、生活習慣、価値観、医療や健康に対する考え方、宗教などが多様であることを意味する。様々な看護場面の中で患者との相互作用により行われるコミュニケーションの概念や理論を理解する。看護というコンテキストで、コミュニケーションにどのような影響を与える様々な因子を探求する。また、看護実践におけるコミュニケーションの課題解決に寄与する教育方略と研究手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(① 阿部恵子/9回) 看護コミュニケーション概論、対人コミュニケーションの概念と理論、患者－医療者間コミュニケーションと影響因子、看護コミュニケーション教育、研究手法、看護におけるコミュニケーション教育の研究の動向と課題</p> <p>(38 杉本なおみ/1回) チームコミュニケーションの概念と理論</p> <p>(39 石川ひろの/2回) ヘルスコミュニケーションの概念と理論、リスクコミュニケーション・アドボカシーのコミュニケーション</p> <p>(40 奥原剛/1回) 行動変容のためのコミュニケーション</p> <p>(41 藤崎和彦/1回) アサーティブコミュニケーション</p>	オムニバス方式

看護コミュニケーション演習		<p>本科目では、看護におけるコミュニケーションの重要性について学修し、研究課題の明確化に取り組む。</p> <p>看護実践におけるコミュニケーションの課題を取り上げ、体験型学修を通して、学修した概念や理論を検証する。理論的基盤に根差した看護コミュニケーションの実践を通して、自身の研究テーマの導出に繋げる。前期の看護コミュニケーション特論で学修した多様な価値観や文化を持つ対象者、及び他職種とのコミュニケーションに関する諸概念や理論をもとに、実践における様々な課題について文献を通してディスカッションを行い、解決策を探求する。また、文献のクリティックやディスカッションを通して、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(① 阿部恵子/12回)</p> <p>看護コミュニケーション研究の意義と動向、リサーチクエストの立て方、看護コミュニケーションに関する国内外の文献購読・クリティック、興味・関心のあるテーマの文献購読・クリティック、文献リストの作成と文献の整理・研究テーマの明確化、研究倫理、研究デザイン・研究計画書の作成、研究計画のプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>(38 杉本なおみ/2回)</p> <p>体験型検証の実践、体験型検証の発表</p>	オムニバス方式
エンドオブライフケア看護学特論		<p>多死社会を迎えた日本では、エンドオブライフケアの重要性が高まり、病院のみならず在宅や施設等を含む地域においても取り組むことが求められている。</p> <p>本科目では、エンドオブライフケアの歴史的背景や基盤となる概念、患者のQOLやQODDについて学ぶとともに、望ましい死を迎えるための支援や、がん患者・非がん患者、高齢者、ICU・救急の場面、在宅におけるケアに関する具体的な支援と家族へのケアについても理解を深める。</p> <p>さらに、受講者自身の死生観を探究することを通して、エンドオブライフにある患者や家族への意思決定支援のあり方や倫理的課題について説明できることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(9 加藤亜妃子/11回)</p> <p>エンドオブライフケアに関連する歴史的背景と概念、エンドオブライフ患者のQOLとQOD、本人・家族が望むエンドオブライフケアと課題、がん患者のエンドオブライフケア、非がん患者のエンドオブライフケア、エンドオブライフにある患者の家族へのケア、エンドオブライフケアに活用できる思想、日本人の死生観とエンドオブライフケア、エンドオブライフにある患者・家族に対する意思決定支援と告知、エンドオブライフにある患者と家族への看護実践</p> <p>(41 新井祐恵/1回)</p> <p>ICU・救急医療におけるエンドオブライフケア</p> <p>(42 原沢優子/1回)</p> <p>高齢者施設・在宅におけるエンドオブライフケア</p> <p>(9 加藤亜妃子・11 青木郁子/1回) (共同)</p> <p>エンドオブライフにおける倫理的課題</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

<p>エンドオブライフケア看護学演習</p>		<p>本科目では、エンドオブライフにある患者と家族を支援するためのニーズについて討議し、挙げられた課題を解決するための研究方法を明確にする。</p> <p>患者およびその家族を含めたエンドオブライフケアに関する文献について、自身の関心のあるテーマに沿ったキーワードで検索する。その文献のクリティークおよびディスカッションを行い、研究動向や研究方法について学修する。</p> <p>また、エンドオブライフケアに関わる、自身が関心のあるテーマを明確化し、研究課題を解決するための研究計画書を作成する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(9 加藤亜妃子/6回)</p> <p>授業に関するガイダンス、エンドオブライフケアに関する研究の意義と動向、エンドオブライフケアに関する国内外の文献購読・クリティーク、がん患者のエンドオブライフケアに関する文献購読・クリティーク、エンドオブライフにある患者の家族へのケアに関する文献購読・クリティーク</p> <p>(9 加藤亜妃子・11 青木郁子/8回) (共同)</p> <p>非がん患者のエンドオブライフケアに関する文献購読・クリティーク、リサーチクエストの立て方、リサーチクエストを探求するための研究手法、自己の関心のあるテーマに関連する文献購読・クリティーク、研究デザインの選定と研究計画書の作成、研究計画に関するプレゼンテーション・ディスカッション、まとめ</p>	<p>オムニバス・共同 (一部)</p>
<p>次世代育成看護学特論</p>		<p>次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ育成されることを支援するために、母性看護学や小児看護学に関する諸理論や概念、リプロダクティブヘルス・ライツに関する歴史的背景や国際動向について学び、複雑化する社会の中において女性や子どもが置かれている状況や健康課題への理解を深める。多様な健康ニーズを持つ女性と子ども、その家族を含めた健康保持・増進するための支援の充実に向けて、エビデンスに基づくケアの方略について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(10 蔵本直子/5回)</p> <p>ウィメンズヘルス・リプロダクティブヘルス / ライツの歴史的背景と概念、母性看護学の諸理論・概念、思春期・青年期女性の健康課題と支援、周産期における健康課題と支援</p> <p>(4 HUSSEIN SALEH, Mohamed H./4回)</p> <p>新生児の死亡率と罹患率、高度新生児医療サービスにおける看護の役割、乳児の死亡率と罹患率、高度小児医療サービスにおける看護の役割</p> <p>(8 鍵小野美和/5回)</p> <p>小児看護学の諸理論・概念、子どもと家族の健康課題と支援</p>	<p>オムニバス方式</p>

	次世代育成看護学演習	<p>次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ育成されることを支援するために、女性や子ども、その家族の多様な課題やニーズを理解し、課題解決するための研究方法を明確にする。次世代育成に関連する国内外の文献やガイドラインの検索を行い、クリティークやディスカッションを通して、自己の研究課題を探究する。また、エビデンスに基づいた看護実践と研究に向けて、EBMとは何かについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(10 藏本直子/2回) オリエンテーション、EBMと看護実践、研究とクリティカルリーディング</p> <p>(10 藏本直子・16 水野妙子/5回) (共同) 研究テーマの絞り込み、次世代育成看護学における倫理的課題、リプロダクティブヘルスに関する文献講読と文献検討、母性看護学に関する文献講読と文献検討</p> <p>(8 鍵小野美和/1回) 子どもと家族の健康支援に関する研究の動向</p> <p>(8 鍵小野美和・12 加藤千明/4回) (共同) 子どもと家族の健康支援に関する研究における倫理的配慮と課題、小児保健に関する文献講読と文献検討、小児看護学に関する文献講読と文献検討</p> <p>(4 HUSSEIN SALEH, Mohamed H./2回) 健康問題のある小児への支援 / 新生児および小児の専門集中治療</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
広域看護学分野	パブリックヘルス看護学特論	<p>本科目は、パブリックヘルス看護学を基盤として、公衆衛生看護とグローバルヘルス看護の基本理念について学ぶ。健康課題は、個人、家族、集団、コミュニティだけでなく、国境を超えてグローバルに取り組む必要がある。昨今では、社会的要因が人々の健康を左右することがよく知られており、健康格差の是正に看護がどのように寄与できるのかについて考える科目である。</p> <p>さらに、多様な価値観や文化を持つ対象者への看護実践とその論文講読を通して、人々の健康とはなにか、健康課題の解決のための研究のあり方について提案できることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 上杉裕子/5回) 日本における在住外国人の課題、移民の健康課題、国際社会の格差に向けての取り組み、国際社会におけるさまざまな健康課題、学術論文を実践にどう活かすか</p> <p>(7 山口知香枝/5回) イントロダクション、健康の概念と予防活動、健康の社会的決定要因、公衆衛生看護学・グローバルヘルス看護学に共通する主要概念、コミュニティを対象とした健康課題と施策化</p> <p>(3 上杉裕子・7 山口知香枝/4回) (共同) 論文クリティーク：基礎編、応用編、発展編、成果発表</p>	オムニバス・共同 (一部)

<p>パブリックヘルス看護学演習</p>		<p>本科目は、健康問題や健康格差をはじめとする健康の社会的決定要因などの課題といったパブリックヘルス看護学特論での学びや、教員の研究テーマを通じて、自らの研究テーマと合わせた論文を探索する。また、論文クリティークを行い、その内容についてわかりやすく発表し、教員を含めたメンバーとディスカッションを行う。研究の妥当性や研究結果の活用を議論することで、健康課題の解決に寄与する学術論文のありようや、リサーチクエスションの立て方について検討する。</p> <p>また、演習を通じて、自身の研究テーマを明確にして研究計画書を作成する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 上杉裕子/2回) リサーチクエスションを追求するための研究手法とその活用方法、教員の研究紹介：グローバルヘルス看護学分野</p> <p>(7 山口知香枝/3回) リサーチクエスションの立て方と関連領域の系統的レビュー、教員の研究紹介：公衆衛生看護学分野</p> <p>(3 上杉裕子・7 山口知香枝/9回) (共同) 研究テーマと明確化と文献クリティーク、研究テーマに関する研究方法の検討、研究計画書の推敲、研究計画書の発表</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>グローバルヘルス看護学展開演習</p>		<p>海外のフィールドにおいて、文化的背景を理解し、その国の健康課題を見出し、その特徴に合わせたケアを考える科目である。海外フィールドは、オーストラリア、アメリカ、アジア各国とし、指導教員と相談して決定される。渡航先では保健医療従事者との面談や、保健医療施設の見学を行う。事前課題としてその国の保健医療システムや主要な健康課題をその国の政府発行資料などを用いて調べる。事後課題として渡航報告会において学修成果を発表する。渡航中には自己の考えや学びたいことを英語で説明し、対象国の医療専門職に説明できるスキルや、その国の異文化を尊重し対応する適応力が求められる。海外で積極的にコミュニケーションをとる姿勢が必要である。</p>	

<p>コミュニティヘルス看護学特論</p>		<p>本科目は、高齢者、身体障害、知的障害、精神障害などにより何らかのケアや援助を必要とする対象者が、地域社会（コミュニティ）で自分なりの健康や幸せを感じながら暮らすために必要な保健医療福祉に関連する知識および支援について理解や考察を深めることを目的とする。コミュニティヘルスに関連する法制度を概観し、基盤となる主要概念・理論を活用して看護実践能力を高める。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>（2 飯盛茂子・5 福田峰子・6 松浦利江子／3回）共同 授業ガイダンス、授業の目的・方法（進め方）、評価方法など、コミュニティヘルス看護における多職種との連携の課題と分析、まとめ</p> <p>（2 飯盛茂子／4回） コミュニティヘルス看護の変遷と現在の課題、コミュニティヘルス看護における地域包括ケアシステムと多職種連携、コミュニティヘルス看護に関連する理論・概念：プライマリーヘルスケア / ヘルスプロモーション / エンパワメント、コミュニティヘルス看護の倫理的課題：在宅で生活する対象者</p> <p>（5 福田峰子／3回） コミュニティヘルス看護に関連する法制度の変遷と現在の課題、コミュニティヘルス看護に関連する理論・概念：レジリエンス / ストレンダス、コミュニティヘルス看護の倫理的課題：高齢者</p> <p>（6 松浦利江子／4回） コミュニティヘルス看護に関連する理論・概念：ノーマライゼーション、精神分析理論（フロイト） / 対人関係派理論（ペプロウ、他） / ストレス適応理論（セリエ）、現代社会におけるストレスと精神保健の課題（統合失調症、感情障害、適応障害、BPD）、コミュニティヘルス看護の倫理的課題：精神保健</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
<p>コミュニティヘルス看護学演習</p>		<p>研究文献講読や自身の実践経験を通して問題視する、コミュニティヘルス看護学領域における課題について討議し、考察する。また、コミュニティヘルス看護学で活用される研究方法を学修し、その結果をまとめてプレゼンテーション・討議する。これらのプロセスを通して、各自の関心のあるテーマの文献検討から、自己の研究課題について焦点を明確にする。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>（2 飯盛茂子・5 福田峰子・6 松浦利江子／6回）（共同） 授業ガイダンス、授業の目的・方法（進め方）、評価方法など、コミュニティヘルス看護学領域における文献検索、自己の関心のあるテーマの明確化と検索条件の設定、自己の関心のあるテーマの領域の中での位置付けの明確化、研究目的の明確化、研究の独自性と創造性および学術的重要性の明確化、研究の独自性と創造性および学術的重要性の明確化</p> <p>（2 飯盛茂子・5 福田峰子・6 松浦利江子・14 鍋島純世・15 松田武美／8回）（共同） コミュニティヘルス看護学領域における文献のクリティーク、自己の関心のあるテーマの明確化と検索条件の設定、自己の関心のあるテーマの研究の動向や背景の明確化、文献検討としてまとめた内容のプレゼンテーション、まとめ、自己の研究の方向性の発表</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>特別研究 I</p>		<p>各自の研究上の関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて学術研究として成立する研究計画を立案する。これらは特別研究 II の礎となるものである。 研究テーマは各担当者によって下記のような内容となる。</p> <p>(① 阿部恵子) 基礎看護学全般、医療におけるコミュニケーションの現状及び教育に関する課題。</p> <p>(2 飯盛茂子) 地域高齢者・障がい者の権利擁護や支援者支援、訪問看護に関連する課題。</p> <p>(3 上杉裕子) 国際看護に関する課題や、アジアの運動器疾患に関する課題。</p> <p>(9 加藤亜妃子) 緩和ケア、エンドオブライフケア、家族ケア、がん看護に関連する課題。</p> <p>(10 藏本直子) 周産期ケア、母乳育児支援、思春期の健康問題、助産師のキャリア支援に関する課題。</p> <p>(5 福田峰子) 超高齢者社会における高齢者看護に関する課題、要介護高齢者を支える家族への支援に関する課題。</p> <p>(4 HUSSEIN SALEH, Mohamed H.) 新生児および小児の集中治療における看護や小児の骨髄移植における看護に関する課題。</p> <p>(8 鍵小野美和) 現代社会における子どもの健康課題、療養する子どもと家族の看護に関する課題。</p> <p>(6 松浦利江子) 精神看護学全般、ケアの倫理、看護倫理、看護師が直面する倫理的葛藤、メンタルヘルス支援に関する課題。</p> <p>(7 山口知香枝) 公衆衛生看護学全般、母子保健、子どもと家族のQOL、小児のアレルギー疾患に関する課題。</p> <p>(11 青木郁子) 糖尿病患者・糖尿病患者家族における支援に関する課題。看護学生のメンタルヘルスに関する課題</p> <p>(13 坪井秀介) 看護師の労働環境、災害看護学の発展、低線量被ばくに関する不安と対策、急性期看護教育に関する課題</p> <p>(14 鍋島純世) 地域高齢者の難聴に関する課題および支援、訪問看護のキャリア支援に関する課題</p> <p>(15 松田武美) 高齢者看護教育、在宅高齢者のフレイル予防、看護コミュニケーションに関する課題</p>	
---------------	--	--	--

<p>特別研究Ⅱ</p>		<p>各自の研究上の関心に基づいて研究テーマを設定し、研究計画を立案し、修士論文を執筆し、発表する。本科目は特別研究Ⅰを基盤として、発展させたものである。 研究テーマは各担当者によって下記のような内容となる。</p> <p>(① 阿部恵子) 基礎看護学全般、医療におけるコミュニケーションの現状及び教育に関する課題。</p> <p>(2 飯盛茂子) 地域高齢者・障がい者の権利擁護や支援者支援、訪問看護に関連する課題。</p> <p>(3 上杉裕子) 国際看護に関する課題や、アジアの運動器疾患に関する課題。</p> <p>(9 加藤亜妃子) 緩和ケア、エンドオブライフケア、家族ケア、がん看護に関連する課題。</p> <p>(10 藏本直子) 周産期ケア、母乳育児支援、思春期の健康問題、助産師のキャリア支援に関する課題。</p> <p>(5 福田峰子) 超高齢者社会における高齢者看護に関する課題、要介護高齢者を支える家族への支援に関する課題。</p> <p>(4 HUSSEIN SALEH, Mohamed H.) 新生児および小児の集中治療における看護や小児の骨髄移植における看護に関する課題。</p> <p>(8 鍵小野美和) 現代社会における子どもの健康課題、療養する子どもと家族の看護に関する課題。</p> <p>(6 松浦利江子) 精神看護学全般、ケアの倫理、看護倫理、看護師が直面する倫理的葛藤、メンタルヘルス支援に関する課題。</p> <p>(7 山口知香枝) 公衆衛生看護学全般、母子保健、子どもと家族のQOL、小児のアレルギー疾患に関する課題。</p> <p>(11 青木郁子) 糖尿病患者・糖尿病患者家族における支援に関する課題。看護学生のメンタルヘルスに関する課題</p> <p>(13 坪井秀介) 看護師の労働環境、災害看護学の発展、低線量被ばくに関する不安と対策、急性期看護教育に関する課題</p> <p>(14 鍋島純世) 地域高齢者の難聴に関する課題および支援、訪問看護のキャリア支援に関する課題</p> <p>(15 松田武美) 高齢者看護教育、在宅高齢者のフレイル予防、看護コミュニケーションに関する課題</p>	
--------------	--	---	--

学校法人金城学院 認可申請に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由			
金城学院大学				金城学院大学							
文学部				文学部							
日本語日本文化 学科	70	-	280	日本語日本文化 学科	70	-	280				
				<u>国際英語学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)			
				<u>総合歴史学科</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学科の設置(届出)			
英語英米文化 学科	90	-	360	<u>0</u>	-	<u>0</u>	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月			
外国語コミュニケー ション学科	80	-	320	<u>0</u>	-	<u>0</u>	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月			
音楽芸術学科	45	-	180	音楽芸術学科	<u>35</u>	-	<u>140</u>	収容定員減(△40)			
				<u>経営学部</u>				学部の設置(届出)			
				<u>経営学科</u>				<u>140</u>	-	<u>560</u>	
				<u>0</u>				-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月(1年次)、 令和10年4月(3年次)	
国際情報学部				国際情報学部							
国際情報学科	170	3年次 10	700								
人間科学部				人間科学部							
現代子ども教育学科	120	3年次 5	490	現代子ども教育学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	収容定員減(△90)			
多元心理学科	110	3年次 5	450	多元心理学科	<u>110</u>	-	<u>440</u>	収容定員減(△10)			
コミュニティ福祉 学科	75	3年次 5	310		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月(1年次)、 令和10年4月(3年次)			
				<u>デザイン工学部</u>				学部の設置(届出)			
				<u>建築デザイン学科</u>				<u>80</u>	-	<u>320</u>	
				<u>情報デザイン学科</u>				<u>110</u>	-	<u>440</u>	
生活環境学部				生活環境学部							
生活マネジメント 学科	70	-	280		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月			
環境デザイン学科	80	-	320		<u>0</u>	-	<u>0</u>	学生募集停止 令和8年4月			
食環境栄養学科	80	-	320	食環境栄養学科	80	-	320				
看護学部				看護学部							
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400				
薬学部				薬学部							
薬学科(6年制)	150	-	900	薬学科(6年制)	150	-	900				
計				計							
	1,240	3年次 25	5,310		<u>1,115</u>	-	<u>4,760</u>	収容定員減(△550)			

金城学院大学大学院				金城学院大学大学院				研究科の設置(認可)
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻(D)	2		6	国文学専攻(D)	2		6	
英文学専攻(D)	2		6	英文学専攻(D)	2		6	
社会学専攻(D)	2		6	社会学専攻(D)	2		6	
国文学専攻(M)	5		10	国文学専攻(M)	5		10	
英文学専攻(M)	5		10	英文学専攻(M)	5		10	
社会学専攻(M)	5		10	社会学専攻(M)	5		10	
人間生活学研究科				人間生活学研究科				
人間生活学専攻(D)	3		9	人間生活学専攻(D)	3		9	
消費者科学専攻(M)	8		16	消費者科学専攻(M)	8		16	
人間発達学専攻(M)	8		16	人間発達学専攻(M)	8		16	
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)	<u>6</u>		<u>12</u>	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	2		8	薬学専攻(4年制D)	2		8	
計	42	0	97	計	48		109	